

I. 中心市街地の概要

1. はじめに

中心市街地は、長い歴史の中で文化と伝統が紡がれた地域の中心都市として、政治、経済、文化、交流等の拠点とされてきた場所です。生活、都市、経済等の機能が集積され、楽しく、快適、便利で、市民みんなが憧れを抱くその場所は、「まちの顔」であり、「市民の心の拠りどころ」となってきました。

現在、中心市街地は、モータリゼーションの進展と居住者の郊外への流出、街なかにおける大規模商業施設の撤退と郊外型店舗の立地など、社会経済情勢の変化の影響を受け、衰退の道を辿りつつあります。

このまま中心市街地の衰退に歯止めがかからず、「まちの顔」が失われていくこととなれば、市全体の魅力や価値の低下につながるものと考えられます。このことを踏まえ、中心市街地の活性化は、市内の一部地域の問題にとらえることなく、市を挙げて取り組む必要があると考えます。

中心市街地の魅力や価値を取り戻し、次の世代を生きる皆さんに「快適に暮らすことができ、住み続けたい」、「いつかは住んでみたい」、「用事がなくてもふらっと訪れたい」、「この街で働いてみたい」と感じていただくことができれば、地域への誇りと愛着が高まり、さらに先の世代にまちを引き継ぎたいという気持ちが育まれていくものと考えます。

2. 中心市街地（高田地区・直江津地区）の区域

(1) 高田地区（区域面積：約 143ha）

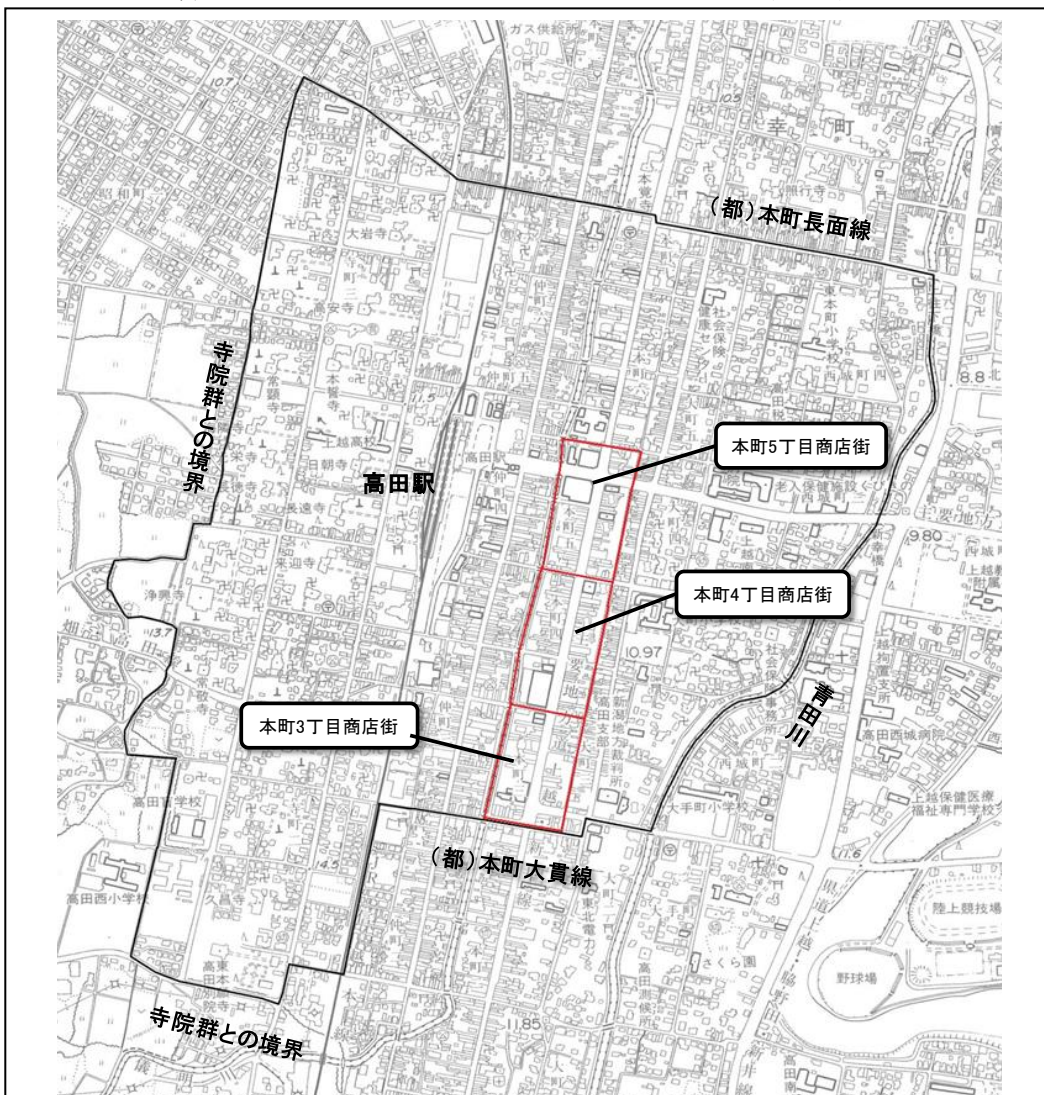
① 概要

本地区は、江戸時代の高田城築城（慶長 19 年（1614 年））に伴い計画的に配置された都市骨格を継承しており、当時から上越地方の中心として発展してきました。現在も日本一長い雁木通りや町家、寺町寺院群などの歴史的資産が数多く残り、公共・公益機関や医療をはじめとした都市機能が集積しています。上越市第 6 次総合計画において、高田駅周辺は、既に集積している都市機能の活用とまちの歴史的価値をさらに高める観点から、必要な都市機能の集積や歴史的まちなみの保存・活用を促進する「都市拠点」と位置付けています。

② 高田地区の区域

上越市(高田地区)中心市街地活性化基本計画（平成 20 年 11 月策定）の区域を引き継ぐものとし、次の境界内とします。

- ・ 東側：青田川
- ・ 南側：（都）本町大貫線～信越本線～東本願寺高田別院参道～高田別院の南側道路
- ・ 西側：上越市福祉交流プラザの東側道路～寺町地区の西側の道路
- ・ 北側：（都）本町長面線とその延長上にある道路（但し、一部は道路の北側街区まで含む）



(2) 直江津地区（区域面積：約 116ha）

① 概要

本地区は、古くから海に開かれたまちとして発展し、奈良時代には越後国府の要港として、明治期の鉄道開通後は、新潟県鉄道発祥の地となり海陸交通の要衝として賑わい、近年は、製造業が集積する工業地域に近接する都市として発展しました。現在は、直江津駅を中心にまちが形成されており、上越市第6次総合計画において、直江津駅周辺は、鉄道が結節する交通の要衝としての特徴や水族博物館うみがたりの整備(平成30年6月開館)等を踏まえ、市内外からの交流促進に寄与する機能の充実を図る「都市拠点」として位置付けています。

② 直江津地区の区域

上越市(直江津地区)中心市街地活性化基本計画（平成20年11月策定）の区域を引き継ぐものとし、次の境界内とします。

- ・ 東側：関川
- ・ 南側：信越本線・北陸本線と、駅南口直近の東西通り
- ・ 西側：上越大通りと、有料老人ホームならびに水族博物館
- ・ 北側：日本海

